

# 青森県 ものづくり企業と 本郷の医療機器メーカーとの 連携推進・マッチング会

[展示会] 平成31年**2月7日(木)** **13時**~**17時30分**

医科器械会館 2階セミナーホール (東京都文京区本郷3-39-15)

対象:医療機器メーカー、ディーラー等 (無料、予約不要)

[交流会] 18時00分~ (1名:3,000円)

[特別講演] 展示会場内 同時開催 ※時間と内容は変更になる可能性があります

14時00分~ **弘前大学 大学院医学研究科**

**形成外科学講座 教授 漆館 聡志** 先生

16時00分~ **八戸市立市民病院 臨床工学科 兼**

**医療安全管理室 技士長 野沢 義則** 先生



弘前大学  
大学院医学研究科  
形成外科学講座  
教授 漆館聡志 先生



八戸市立市民病院  
臨床工学科兼医療安全管理室  
技士長 野沢 義則 先生

医療現場のニーズ・アイデアを収集する場合、多くの医療従事者は「発明」を意識してしまいます。ものづくり企業の新規参入においては、むしろ既存の医療機器を独自の技術で改良する考え方が適していると考えます。今回、どこの医療施設でも使用される医療機器に関するニーズ(主に不満)をベースに、ニーズを掘り下げながら参加者と共にディスカッションしたいと考えます。新たな発想により医療現場の期待に沿った製品開発に結び付けば幸いです。

主催 青森県、(公財)21あおり産業総合支援センター

共催 商工組合日本医療機器協会

後援 (一社)日本医工ものづくりコモンズ、(一社)日本医療機器産業連合会、(一社)日本医療機器テクノロジー協会

青森県は「青森県ライフイノベーション戦略セカンドステージ」で重点分野に「医工連携」を位置づけ、県内企業の医療機器産業への参入を支援しています。

平成30年度は、八戸市立市民病院、弘前大学医学部附属病院、青森県立中央病院で「青森MOT」を開催し、臨床の先生方から“現場のお困りごと”(臨床ニーズ)をご提示いただきました。こうしたニーズを起点に、医療者、県内ものづくり企業、そして、製販企業が三位一体となったデバイス開発を目指しています。本郷展示会「特別講演」では、弘前大学形成外科の漆館教授から臨床ニーズについても一部、紹介いただく予定です。



弘前大学  
大学院医学研究科  
形成外科学講座  
教授 漆館聡志 先生

※以下、平成30年度「青森MOT」で発表された臨床ニーズの一例です。

デバイスの種類	デバイス開発の背景（臨床現場の現状と問題点）
手術台の術中座位用補助具	乳房再建手術の際に術中座位で再建乳房の位置確認を行っている。座位にする際に上半身と手術台にずれが生じて、上半身がずり上がっていく。このため頭部が手術台からはみ出してしまい、不安定となる。また上肢も手台からずり落ちてしまう。術中座位を安全に行える補助具が必要である。
手術機器（乳房再建用糸通し）	乳房再建手術の際に乳房下溝を形成するためにナイロン糸で乳房下溝の引き締めを行っている。現在は乳房下溝の midpoint に小切開を置いて、ここから内外側に硬膜外針を用いて皮下にナイロン糸を通してはいるが、手技が煩雑で手間がかかる。このナイロン糸を容易に通せる器具が必要である。
経管栄養チューブ	現在経管栄養チューブの位置確認はレントゲン写真が推奨されている。乳幼児の場合には、くしゃみ等で頻回に抜けることがあり、この度にレントゲン写真を撮影するのは被爆の問題がある。このためレントゲン写真以外で位置確認ができるチューブがあると良い。また、通常固定は鼻にテープで行っているが、自己抜去の可能性があるとともに固定した状態は決して見た目が良くない。鼻腔内に固定する等の工夫ができないものか。
耳介装具	柔道やレスリングでは耳介血腫を形成することがある。血腫の吸引のみでは再貯留を繰り返し、耳介変形が残ることが多い。このため血腫吸引後は圧迫が必須である。しかし複雑な耳介形態に合った既成の装具は存在せず、各自工夫して固定しているのが現状である。我々は熱可塑性プラスチックを用いた装具を用いているが、はさみ込みの構造が困難である。簡便に作成できるはさみ込み装具が必要である。
手術機器（剪刀付持針器）	形成外科では持針器を使った器械結びをする機会が多く、縫合数も他科に比し多い。1人で多数の縫合をおこなう際に、持針器と剪刀を持ち変えるのは無駄が多い。このため剪刀付持針器があるが、現在あるものは糸を予期せず切る危険があったり、剪刀のすりあわせのために使用感が悪かったりする。このような点を改良した剪刀付持針器が必要である。
手術機器（植皮固定具）	現在広範囲熱傷の植皮の固定にはステイプラーを用いることが多い。ステイプラーでの固定は簡便であるが、ステイプラーの場合、植皮の生着後に抜鉤が必要である。しかし肉芽組織に固定した後に上皮化すると組織内に埋もれてしまい、抜鉤できず、後日トラブルとなることがある。このため抜鉤などの処置の必要ない植皮固定具があると便利である。

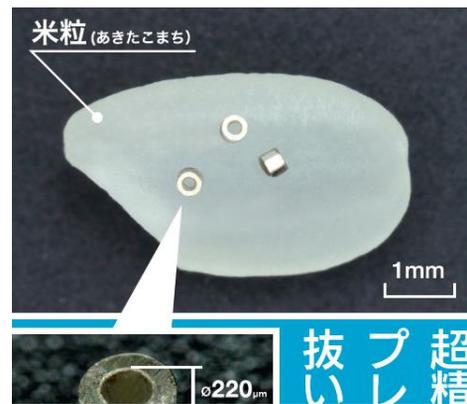
# 出展企業



株式会社アドバネクス



アンデス電気株式会社



カミテック株式会社



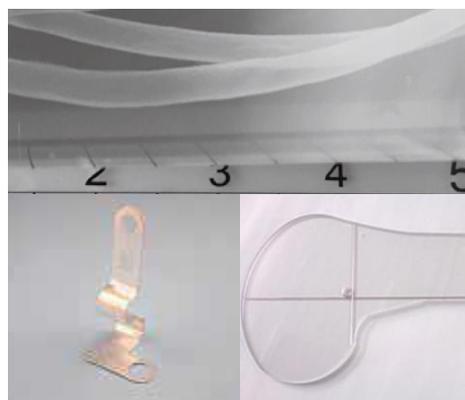
株式会社コア



サワダS T B株式会社 青森工場



有限会社東奥電気



有限会社ビット・テック



マルマンコンピュータサービス株式会社



株式会社宮坂ポリマー青森

## 【展示・商談会場】



出展企業との個別面談を  
事前調整いたします。  
お気軽にご連絡ください。

株式会社日本医工研究所  
担当：寺尾・坂本  
TEL 03-5615-9700  
FAX 03-5615-9702  
entry@j-ikou.com